

令和 6 年度 東京都立翔陽高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組目標と自己評価について

(1) 教育活動の目標と方策

ア 計画的・組織的な学校運営の推進

- (ア) 学校経営計画の作成にあたり、将来構想委員会の報告にある「SWOT分析を通しての提案」10項目を反映させ、「今年度の取組目標と具体的方策」を明確化した。今後も教職員の自己申告書と連動させ、さらに計画的・組織的な学校運営を図ることが課題である。
- (イ) 年間を通して企画調整会議や教科主任会を核として分掌と年次及び教科との情報交換を活性化し、課題解決に向けた協働体制の構築を図った。今後も本校のさらなる魅力向上の実現に向けたベクトルを教職員間で共有し、都民から信頼される学校づくりを推進する。
- (ウ) 若手教員の研究授業や教育研究員・東京教師道場部員の公開授業を活用するとともに、元管理職の非常勤教員による定例研修や日々の分掌業務でのOJTを通じて若手教員への組織的な支援体制を構築した。次年度も学校全体で組織的な授業力・指導力の向上を目指す。
- (エ) 年間行事計画に基づき、学習活動と三大祭など学校行事・部活動の両立ができるよう丁寧な指導を行った。授業外の学習時間確保のための自習環境の向上、時間を守り遅刻をしない等の時間管理意識の向上を目指した全校での指導を継続することが課題である。
- (オ) 服務事故防止研修等を通じて体罰防止やセクハラ根絶、個人情報保護の徹底等、コンプライアンス遵守に向けた組織的な取組を推進し服務事故ゼロを達成した。引き続き事故の未然防止を図る取組を着実に進めてサービスの厳正を図り、信頼される都立高校を目指す。
- (カ) 毎月1回の定例教科主任会を中心に教科間及び教務部・進路部との情報共有を図った。生徒に模試と定期考査の違いを意識付けさせ、模試分析と連動した教科主任会の実施により生徒の学力の定点観測を徹底し、一人1台端末の活用も進めることが今後の課題である。

イ 学力向上への取り組み

- (ア) 観点別評価も3年目となり、生徒の強みや弱点を発見し指導の改善点を明確にした指導が定着しつつある。授業評価アンケートでは肯定的評価が前年度同様88%となった。今後も指導と評価の一体化を図り、生徒からの評価や意見を真摯に受け止め授業改善を続ける。
- (イ) 新教育課程も完成年度となり、学力スタンダード達成に向けて各教科とも指導内容、方法の改善を着実にを行った。C4thの利用が定着し、定期考査採点・分析システムや授業でICT機器を活用する教員も確実に増えている。ICT支援員も大いに学習支援に寄与している。
- (ウ) 感染予防や台風・雪など天候不順による学校閉鎖時でも迅速にオンラインによる学習支援ができる体制が定着した。増加傾向の不登校生徒等に応じた教務規定の見直しと改定により、「多様な学習ニーズ」に対応した生徒への学習支援体制の確立が今後の課題である。
- (エ) 1年次探究では八王子市と連携した地域課題解決グループ活動を行い、2月に「まちづくり提案発表会」に参加した。2年次探究ではキャリア甲子園を通じて企業提示の課題に対してアドバイザーの支援を受け、解決策をグループで考えて発表する探究活動を行った。
- (オ) 全教科で言語能力向上を目指して、図書館等を活用して読解力向上を図る取組を進めた。2年次では朝日新聞とコラボした新聞講座も行った。今後も大学入試や民間検定試験に有効な読解力、記述力やプレゼン能力の育成を図る授業実践等を計画的・組織的に行う。
- (カ) 学習の「見える化」を目指して新たに自習室の活用に関する校内規定を決定した。また自習スペースに係る机や椅子を予算化し生徒の積極的な活用も促した。今後も授業外学習時間確保の工夫、進学意識を高める講習の拡大等校内外の学習機会を増やす取組を進める。

(キ) 本校の教育研究員や東京教師道場部員による他校教員も含めた公開授業、若手教員の研究授業、管理職による授業観察等、学校全体で授業改善や授業力向上を図った。今後も生徒一人1台端末やICT機器等、デジタル環境を有効活用して学習支援体制を充実させる。

ウ 希望進路の実現への取り組み

- (ア) 進路指導研究校として他の指定校との連絡・協議に参加したり、模試分析会の改善点等について助言を受けた。今後も進学指導研究校として、入試制度の変化にも対応し生徒の多様な進路希望にも応えられるよう進路部と各年次や各教科との連携を一層強化する。
- (イ) 進路に関する情報や模擬試験に係る連絡などを整理の上、Teams等を通して生徒・保護者にタイムリーに発信した。キャリア教育年間指導計画に基づき、保護者への進路情報提供を強化し進路行事を精査するなど次年度以降も継続して見直しを図ることが課題である。
- (ウ) 1年次は11月に大学訪問を実施し自分の興味・関心に関連する大学や職業について学ぶ機会を設けた。2年次には3月に「卒業生と語る会」を実施し進路意識を高めた。3年次は各種ガイダンスにより高い志を持たせ、大学入学共通テストに75.7%の生徒が出願した。
- (エ) 進路意識調査や第一志望届、模試データ等をシステム化することでデータに基づく進路指導を充実させた。進路の手引きの活用により3年間の進路の流れの理解促進も図った。一方、大学進学を希望しない生徒への模擬試験の受け方についての指導が課題である。
- (オ) はばたきタイムの中で進路ガイダンスや模試の事前事後指導、高大連携による出張講義等を計画的に実施した。近隣大学との連携をさらに具体化させ、模試分析会を通じて担当年次だけでなく全校的に生徒の学力定点観測を行い教科指導に生かすことが課題である。
- (カ) 自習スペースの新設とともに利用規定を整理して、授業外の時間帯での自習環境整備を行った。長期休業中の講習は対象年次、講座数とも増えた。自習スペースの利用生徒及び利用頻度の増加を目指し、講習等の充実により生徒の学習習慣と意欲の向上を図っていく。
- (キ) 全教科・全年次教員からの協力により、主に総合型・学校推薦型選抜を受験する3年次生徒への面接や小論文指導の充実を図った。今後も進路部と他分掌・各教科との連携を一層強化し、年々増加する年内入試にも対応できる組織的な面接・小論文指導を継続する。

エ 英語教育、国際理解教育及び国際交流の充実

- (ア) JET2名とALT2名を有効活用した英語による英語授業、オンライン英会話やICT等を活用した協働的学びで英語4技能の着実な向上を図った。今後もTOKYO GE-NET EE推進校としてのメリットを活かし4技能向上のために授業内外でのJETやALTの活用を一層図る。
- (イ) 推進校予算等の活用により、英検の合格者数は準1級3名、2級78名、準2級116名となった。今後もきめ細かい1・2次試験対策を継続し、学年別目標級の取得と卒業までにCEFRでB1以上の英語力を身に付けさせるなど4技能のバランスが取れた英語指導を実施する。
- (ウ) 1年次対象のイングリッシュ・キャンプに119名が参加し、本校にオーストラリアの高校2校を受け入れて7月と12月に交流を行った。また3月に今年度初の海外研修旅行(ケアンズ)を行った。今後も海外学校との交流を推進し国際教育と異文化交流の充実を図る。
- (エ) 1月に実施した台湾への海外修学旅行により、2年次生が外国語と異文化や習慣に触れる貴重な体験をした。次年度も台湾への海外修学旅行での現地校との交流や留学生受入等を通じて、日本の伝統・文化の理解や他国の伝統・文化を尊重する態度を身に付けさせる。

オ 生徒の規範意識向上への取り組み

- (ア) 全教員が生徒の遅刻、服装、頭髮、時と場に応じた言葉遣いや所作について日頃から声掛け指導を行った。始業式や終業式、20周年記念式典等の身だしなみ指導も全教員で取り組んだ。今後もバス乗車や身だしなみ指導等の具体的な方法について検討・改善を図る。
- (イ) 警察署や一般社団法人等から外部講師を招き、がん教育講話やデートDV予防啓発講話、セーフティ教室として闇バイト防止講話やネット犯罪防止講話等を実施した。今後も自殺予防、ネット犯罪の被害・加害、盗撮等の防止を図ることで生徒の意識喚起を促していく。
- (ウ) 定期考査時の不正行為が数件、不適切動画の投稿に関わる特別指導があった。また登下校時のバス乗車や自転車のマナーに関して地域からの苦情が数件あり、その都度注意を呼

- び掛けて巡回や警備を強化した。今後も継続的な生活指導により自律的態度の育成を図る。
- (エ) 自転車通学生徒への損害賠償保険加入やヘルメット着用への注意喚起を行った。自転車通学者のヘルメット着用を求める都教委の方針を踏まえ、今後も生徒の生命を守るための方策を徹底させ、警察とも連携しながら全教職員で確実なヘルメット着用率の向上を図る。
- (オ) 1学期にSCによる1年次生全員面接を実施した。いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ計3回実施した。生命に関わる事故が1件あり、SCや教育相談センターと連携して生徒の心のケアに取り組んだ。今後も生徒の些細な変化も見逃さない体制を構築する。
- (カ) 地域に開かれた学校を目指し、穎明館高校生徒会との交流、拓殖大学陸上部との交流、和太鼓部の八王子祭や警察署・児童館での演奏、男女テニス部の児童館でのスポーツ交流等を行い好評であった。今後も近隣の学校との部活動や生徒会交流を継続・拡大していく。
- (キ) 特別支援教育委員会を計6回実施し生徒情報を共有した。八王子西特別支援学校のコーディネーターを講師に合理的配慮をテーマとした校内研修を実施した。八王子市役所と消防署と連携して1年次生対象に地域防災訓練を行い、生徒の自助・共助意識を向上させた。
- カ 特別活動の充実への取り組み
- (ア) 生徒は体育祭や合唱祭、翔陽祭の三大祭にホームルームで団結して取り組み自己肯定感を高め、来場者も多かった。弓道部とダンス部が全国大会への出場を果たすなど部活動の活性化も見られた。今後も学習と部活動の両立、心身ともに健全な人間の育成に取り組む。
- (イ) 翔陽祭では飲食に係る企画が再開し、体育祭・合唱祭を含めてコロナ禍以前の三大祭の内容に戻すことができた。今後も生徒には学校行事の内容や協力体制の改善に積極的に取り組ませ、内容の充実と達成感や自己肯定感を育む指導を展開する。
- (ウ) 部活動紹介を生徒自身で工夫するなど新入生に活動の魅力を伝え、健全な心と身体を育成する活動を活性化させることで部活動加入率も今年度は78%（昨年度73%）に上昇した。今後も生徒募集対策に資する中学生対象の部活動体験・部活公開DAY等を設定する。
- (エ) 都教委のガイドラインに則り安全・安心な部活動を心がけた。今後も活動日や回数等、部活動指導の方法を常に点検するとともに、計画的な活動の実現のため体罰やセクシャル・ハラスメント等の根絶、ミストシャワー等の設置により熱中症防止対策の徹底を図る。
- (オ) 高い規範意識を持ち自らを律することができる生徒の育成を目指して、全校集会や年次集会、ホームルーム活動等で継続的に指導を行った。今後もまず「声を掛ける」を合言葉に全教職員で生活指導全般の共通理解の上、学習と部活動等両立に向けて全校で取り組む。
- (カ) 5月に東京都統一体力テストを実施し、生徒が課題を持って体力向上に取り組み、生涯を通じてどんな困難な状況においても自分らしく生きるための意識の向上を図った。今後も東京都統一体力テストのデジタル化に伴う結果入力方法の確認等の対応を図っていく。
- キ 生命尊重と人権感覚の磨かれた生徒の育成への取り組み
- (ア) いずれも外部講師を招き、主権者教育講演会（2月）や闇バイト予防講話（12月）、セーフティ教室（3月）やがん教育講演会（3月）等を実施した。今後も18歳成年を踏まえた主権者教育の充実、情報の授業やホームルーム等でSNSの功罪やモラルの指導を行う。
- (イ) 生徒、保護者の悩みに対応するため、専門性のあるSC等に確実に繋げる対応を行い、いじめや不登校の予兆の早期把握に努めた。いじめ対策委員会の開催により生徒情報と対応を共有した。デートDV講演会など外部関係機関と連携し生徒の人権感覚の向上を図った。
- (ウ) いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施した。今後も校内における情報共有と外部機関との連携を徹底し、学校いじめ対策委員会を核に事案発生時の早期対応を心がける。
- (エ) 生徒がSOSを発信しやすく学校全体で悩みを受け止める温かな雰囲気づくりを目指して特別支援コーディネーターやSCを始め全教職員が取り組んだ。今後も研修会の実施や都立学校版コンディションレポートを活用した生徒状況把握に向けた体制作りを進めていく。
- (オ) 都立学校間交流教育事業を通じて、地域の拠点校である八王子西特別支援学校から講師を招いて校内研修会を行うなど連携を深めた。今後も不登校生徒や発達障害等の生徒への

通級指導などの対応を含め YSW や外部関係機関との連携を充実させる。

- (カ) 18 歳成年制度を受け、主権者教育講演会、公民科や家庭科の授業における契約など消費生活に関する基本知識や消費者として主体的に行動できる能力と態度を身に付ける指導を行った。今後も外部講師を活用した主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させる。

ク 地域に根ざした学校づくりへの取り組み

- (ア) 学校運営連絡協議会を年 3 回（6 月、11 月、2 月）実施し、学校評価アンケートにより生徒・保護者・地域・教職員からの要望や意見を聞き取るなど学校運営の透明化を図った。地域との交流事業の推進や学校評価アンケート結果を受けた具体的な改善が課題である。
- (イ) 避難訓練を年 4 回（5 月、7 月、9 月、12 月）、1 月に市役所や消防署と連携した地域防災訓練を実施した。今後も全教職員で消防署や警察署、地域と連携し危機管理マニュアルを基に事故・事件発生時の対応や連絡体制を明確にした危機管理体制を構築していく。
- (ウ) 生徒の環境委員会・保健委員会を中心に環境美化活動や感染症拡大防止対策等の環境整備を実施した。今後も校内のごみ箱設置、地域や P T A と連携した環境改善支援ボランティア設立等、学校安全衛生環境の維持・推進に向け計画的な環境整備に取り組んでいく。
- (エ) 部活動指導員や外部指導員を有効活用し、教員の部活動指導における負担軽減を行った。また月 1 回の安全衛生委員会において、産業医を交えて定期健康診断結果やストレスチェック、月毎の残業時間データ等を検証し教員のライフ・ワーク・バランスの向上を図った。
- (オ) テレワークや時差勤務の活用等により教員の超過勤務は減少傾向だが、今後も残業上限が月 45 時間超過とならないよう注意・喚起を促し、年次有給休暇の積極的な取得等により、教職員の心身の健康を守る学校づくりを進める。
- (カ) 超過勤務の教員や病気休暇中の教員について、産業医及び管理職との面談を通じて状況把握と助言を行った。今後も閉庁日の適正な実施と長期休業期間中などにおける年次休暇の計画的取得などを促し、働きやすい職場づくりを進める。

ケ 広報活動の取り組み

- (ア) 学校見学会（7 月と 8 月）に 480 名、学校説明会（10 月、11 月、12 月、1 月）に 613 名の参加があった。都立合同説明会（11 月）や塾主催の説明会等にも積極的に参加したが、本校への受検生の増加につながらなかった。説明会の実施方法の工夫と改善が課題である。
- (イ) 入学者選抜については、1 月の中進対では 0.65 倍で、最終倍率は推薦に基づく選抜が 0.90 倍（昨年度 1.50 倍）、学力検査に基づく選抜が 0.76 倍（昨年度 1.07 倍）と大変厳しい結果となった。本校の魅力をアピールする生徒募集対策の工夫と改善が喫緊の課題である。
- (ウ) 10 月と 11 月に学習塾等を対象とした学校見学・説明会を実施した。来年度は塾の対象地域も拡大して、本校の教育課程や進路指導、学校行事・部活動の推進、国際交流行事等の特色などを積極的に PR する。管理職による塾訪問も駅周辺を中心に約 80 校実施した。
- (エ) ホームページの更新を計 340 回以上行った。またInstagram等を活用してタイムリーな話題や部活動情報等の更新を頻繁に行うなど本校の教育活動を分かりやすく、迅速かつ正確に発信した。今後も構成・内容等を刷新し、中学生の閲覧回数を増やす工夫を行う。
- (オ) 学校案内パンフレットやポスターを刷新した。また学校説明会や見学会でInstagramの登録も促進した。志望倍率の大幅な低下を厳しく受け止め、今後も教職員全身体制で積極的に対外的な広報活動を効果的に展開し、本校を第一志望とする中学生の増加を図る。

(2) 経営参画の目標と方策

経営企画室の経営参画への取り組み

- (ア) 経営企画室と教員との連携を強化して業務を遂行した。また教育庁関係部署等との調整等により各課題の解決を図った。新規採用職員もチューターを中心に計画的に育成した。
- (イ) 次年度の自律経営予算ヒアリング等を通じて教員と意識を共有し、適正な編成を行った。常に費用対効果を意識した予算執行に努め、20 周年記念行事も計画的に実施した。
- (ウ) 一般需用費の執行率は 99.0%であった。入学者選抜におけるインターネット出願事務や個人情報管理、会計事故防止に努めた。DX 予算や多様な学習予算も有効に活用していく。

(エ) 生徒の安全に関わる事故を未然に防止するため教員と連携して施設設備の点検や修理、空調設備改修、来年度からのトイレ改修に係る連絡調整等について速やかな対応を行った。

2 数値目標

内 容	目 標	達 成 度
学校評価アンケート 本校入学満足度（肯定的評価）	生 徒 75% 保護者 75%	生 徒 87.2% 保護者 91.7%
学校評価アンケート 家庭学習充実度（肯定的評価）	生 徒 70% 保護者 70%	生 徒 82.2% 保護者 68.5%
学校評価アンケート 進路指導充実度（肯定的評価）	生 徒 75% 保護者 75%	生 徒 94.2% 保護者 83.4%
学校評価アンケート 英語教育充実度（肯定的評価）	生 徒 70% 保護者 70%	生 徒 84.7% 保護者 67.3%
学校評価アンケート 国際理解教育充実度（肯定的評価）	生 徒 75% 保護者 75%	生 徒 89.2% 保護者 87.3%
学校評価アンケート 教育相談充実度（肯定的評価）	生 徒 70% 保護者 70%	生 徒 86.0% 保護者 76.0%
学校評価アンケート ホームページ充実度（肯定的評価）	生 徒 70% 保護者 70%	生 徒 83.1% 保護者 81.2%
平日の家庭学習時間	1年次 80分以上 2年次 100分以上 3年次 150分以上	1年次 58分 2年次 61分 3年次 108分
生徒による授業評価アンケート 各教科・科目授業満足度（肯定的評価）	90%以上	88%
英語検定 準1級、2級、準2級所有者数	準1級 2名以上 2級 70名以上 準2級 200名以上	準1級 3名 2級 78名 準2級 116名
英語外部検定CEFRで B1以上の割合	25%	27%
進路決定率	90%以上	92.1%
大学入学共通テスト出願率	80%	75.7%
大学入学共通テスト 全国平均上回り科目数	7科目	3科目
国公立大学への現役出願者数	15名	12名
国公立・難関私立大（早慶上理）現役合格者数	5名以上	6名
GARCH現役合格者数	40名以上	45名
中堅私大（日東駒専）現役合格者数	60名以上	60名
部活動加入率	80%以上	78%
年間遅刻延べ回数	のべ4500回以下	のべ6892回
入学者選抜等の倍率	中進対 1.2倍 推薦 2.0倍 学力検査 1.2倍	中進対 0.65倍 推薦 0.90倍 学力検査 0.76倍
ホームページの更新回数	400回以上	348回